

三菱自社長が試乗

東京

「未来先取りした技術」

オーベック

岡山県と県産業振興 第2弾「OVEC」財団（岡山市北区芳賀）TWO」を、共同研究は11日、産学官連携している三菱自動車本で開発した電気自動車社（東京）周辺の公道車（EV）の試作車で走らせた。同社の相

川哲郎社長が初めて試乗し、試作車のベースになった同社の軽EV「アイ・ミープ」と比べ「加速性能や静かさなど遜色ない」と評した。

試作車は、県が同財団に設けた「おかもた次世代自動車技術研究開発センター」（OVEC）を拠点に進めるEV開発の第2期事業（2014～16年度）として、昨年5月に完成。新技術の実用化を通じて取引拡大を目指す県内の自動車部品関連メーカー16社が参画している。

約10分間運転した相川社長は「実用化でき

れば、未来を先取りした技術になる。挑戦的なプロジェクトだ」とも述べた。三菱自は今後、後輪に組み込んだ「インホイールモーター」といった主要部品の耐久性や信頼性の試験を手掛ける。

「OVEC-TWO」の試乗を終えた三菱自の相川社長

（C）山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。